

## 第4回（平成19年度）

### 日本原子力学会北関東支部 技術功労賞

「第4回（平成19年度）日本原子力学会北関東支部技術功労賞」は、選考委員会の審議を経て平成20年4月4日に全役員の合意により以下の3件の受賞が決定しました。

本賞は、北関東支部管内において原子力に関する研究開発施設やプラントの運転管理、安全確保など技術支援分野において優れた貢献をした個人または団体に対して、その功労をたたえるものです。

#### 受賞者（受賞団体）及び受賞概要

- ・ **宮澤 正孝氏、高橋 邦裕氏、明石 一朝氏、磯崎 孝則氏、田畑 修三氏、深作 秋富氏、飛田 健治氏、根本 宣昭氏、越後谷 進一氏、五来 滋氏、北島 敏雄氏、菅野 勝氏、鍋谷 栄昭氏、作田 善幸氏、細川 甚作氏、後藤 一郎氏**

（日本原子力研究開発機構 原子炉施設管理部）

件名：JMTRの40年にわたる安全運転と照射技術の開発

（概要）大洗研究開発センターに設置されている材料試験炉 JMTR は、1968年3月の初臨界以来、数々の照射試験設備の開発・設置、様々な原子炉の開発に関わる数多くの困難な照射試験等、多くの成果を積み重ねてきた。受賞者は40年近い利用運転を通して、JMTRにおける原子炉施設、照射設備の運転管理、照射試験における技術開発に対して鋭意努力し業務遂行を続けてきており、これらの成果に大きく貢献してきた。

- ・ **杵掛 忠三氏、田中 滋氏、阿部 雄一氏**

（日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門）

件名：長年にわたる核融合中性子工学用中性子源 FNS における運転保守管理と技術開発

（概要）核融合中性子工学用中性子源（FNS）施設は、日本原子力研究開発機構原子力科学研究所にある加速器型14MeV中性子発生装置を中核とする研究施設であり、これまで核融合研究分野で世界をリードする大きな成果をあげてきたほか、核融合中性子工学の実験研究の世界的な中心拠点として様々な国際協力や、国内の協力研究に使用されてきており、さらに原子力の基盤を支える核データ研究分野においても多大の貢献をしてきた。

受賞者は、装置の完成当初から26年間、一貫してその運転保守管理を行ってきており、大量の14MeV中性子、非密封トリチウム、高電圧機器、高レベル放射性廃棄物等の諸課題に安全かつ適切に対処し、26年もの長きにわたり無事故、人身の無災害を達成している。また、不断の技術開発にも努め、核融合中性子工学の研究に大きく貢献してきた。

- ・ 岩館 克美氏、菊池 明夫氏、安孫子 庄助氏、寺田 秀行氏、川崎 一男氏、西田 哲郎氏、磯崎 典男氏、大津 健太郎氏、金沢 勇作氏、石山 道氏、金澤 幸一郎氏、根本 勉氏、薄井 正弘氏、他 73 名

(日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所、及び常陽産業 (株))

件名：長年にわたる所内ユーティリティ供給設備の運転維持管理

(概要) 東海研究開発センター核燃料サイクル工学研究所では、核燃料サイクル実現に向けた幅広い研究開発を進めている。これらの研究開発業務を展開する原子力施設等では、施設の安全確保及び研究開発業務の遂行のために電力、水、蒸気、ガス等の各種ユーティリティの安定供給は、原子力施設の運営に非常に重要な役割を占めている。

受賞者は、所内の約 120 を超えるユーティリティ設備の運転維持管理を担当しており、数多くの関係法規制を順守しながら各種ユーティリティを安全かつ安定して供給しており、約 40 年の長年に亘り 24 時間体制で運転管理業務に取り組んできており、所内原子力施設等の安全確保はもちろんのこと核燃料サイクル工学研究所における数々の研究開発の成果に多大な貢献を果たした。

